

資料④ 「文構造」と「文法」の指導上のポイント（理論編）



コミュニケーションを図る上で、小学校での「文構造」、中学校での「文法」の指導について、つながりや違いを理解することが重要です。小学校でコミュニケーション場面と密着させて学んだ表現について、中学校ではどのようにつなげていくと効果的か考えてみましょう。

言語活動を通して「文構造」「文法」について意識や気づきを促す授業づくりを図りましょう。

小学校	中学校
<p>「文構造」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気づき、理解するとともに、読むこと書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けることを目標としています。 「文構造」とは、文の構成要素（主語・動詞・目的語・補語）の関係を示したものです。授業では、文法の用語や用法の指導を行うのではなく、繰り返し触れるよって、日本語と英語の語順の違い等の気づきを促し、どのように語と語を組み合わせれば、伝えたいことが表現できるのかということに意識を向ける指導を行います。 	<p>「文法」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校では、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上で繰り返し使用することで、どのように文法が使われているかに着目させて、子どもの気づきを促す指導を行います。 文法事項を学んでは意味ある文脈の中で使い、使っては学ぶという理解と実際の使用のサイクルを繰り返しましょう。 コミュニケーションを支えるための文法指導では、文法用語などの使用は必要最低限にとどめ、豊富な例文に触れていく受容的な使用の中で、次第に発信的使用へと発展していくような配慮が必要です。

中学校から小学校に聞いてみましょう！



Q. 小学校でどの程度「文法」について学習していますか。

A. 小学校で「文法」の指導は行われません。コミュニケーションを図る目的を達成するために、「文構造」を言語活動を通して理解する学習をします。例えば、“I went to the mountains.” “I enjoyed camping.” という英文は、過去形としてではなく、夏休みの思い出を友達に紹介する場面で、「自分がしたこと」を表現する文構造として、コミュニケーションの場面・目的・状況等と組み合わせて理解します。ですから、**中学校で振り返りをする場合、どんな場面で使った表現かを子どもにたずねると**、思い出しやすくなるでしょう。

Q. 小学校でどの程度「書くこと」について学習しますか。

A. 小学校高学年では「書くこと」の指導が行われますが、これはアルファベットや、チャンツや歌、言語活動等を通して、音声で十分に慣れ親しんだ単語や文について、手本を見ながら書き写したり、単語を入れ替えて自分のことを伝える文を書いたりする学習です。単語のつづりの暗記や、英文全文を自分で考えて書くことはしません。

